

『森崎和江を読む』

学習会のお誘い

「満ちるということは 湧かせること！」

うりうり ひさこ

(そのだ ひさこ 会員)

福岡県人権研究所が部落史・部落問題だけではなく、ウイングをひろげて部会制をとって数年後、ジェンダー部会では八〇代半ばの森崎和江さんを講師にお呼びして、ゆったり、楽しくお話を聞きすることができた。

わたし個人は「女性同炎の会」(真宗大谷派の学習会)の一〇年余の学習会のなかで、森崎和江さんや石牟礼道子さんや伊藤ルイさんを講師にお呼びしたり、その数年後の同じ真宗大谷派の「女人史の会」(六回にわたる自主学習会)でも、泊まりこみで森崎さんに講師をしていただいた。石牟礼さんも亡くなられ、ほぼ同年の

和江さん(森崎和江さんのこと)は今お元気で
おられるのだろうか。会いたい限りです。

二〇代前半頃、はじめて和江さんの言葉に
であった。「非所有の所有」や『第三の性』な
ど。いわゆる文学論でもなく、いわゆる女性論
でもなく、出会ったことのない言葉の群れと論
理にただ、ただ圧倒された。二〇代後半の看
護学校(ほとんど女性)の講師時代、歴史の科
目で『第三の性』を解つてもいいのに(?!)
四年間テキストに使っていた。

ちなみに、『第三の性』は、結婚し子どもを
生んだ女性と生んでない非婚の女性との手紙交
換形式の新書である。生めない女の悲しみと生
んだ女へはなたれつづける不信、それを満身に
受けとめながら展開される女・性の論理。一見
とりつきやすい、手紙形式だが、長い分離の歴
史を負ってきた男と女の関係を差別・被差別の
歴史の時間制と、「人ひとりなるはよからず」
(旧約聖書)という人にとって性とは何なのか

という空間性の双方から「性(愛)の存在論」
ともいうべき論理が展開されている。

和江さんの著作は多岐にわたっている。『森
崎和江コレクション精神史の旅』(藤原書店・
二〇〇八〜二〇〇九)では1産土 2地熱 3
海峡 4漂白 5回帰 と全五巻にまとめら
れている。このコレクションの書評の特集号
『還』に少し書評を書かせていただいた。

自分の原型は朝鮮によってつくられたという
和江さんの原郷、朝鮮にかかわる著作、自分の
知らない日本、私の知らない私に出会うために
移住し、そこから発信した炭鉱にかかわる著
作、海を渡ったさまざまな島人たち、公娼制度
のさなかに「おなごの仕事」に海を渡った女た
ち・・・そんな人々を追いつづけた著作。その
他にも多数。

それら膨大な著作のなかからジェンダー部会
としては、何よりも女性論、性(愛)論にかか

わる著作から読みすすめたいと思う。

数千年来、分離の歴史を重ねてきた男と女の
差別・被差別の歴史! 「両性のそれぞれの錯誤
の距離は、いま愛しあう者らの感受しているそ
れよりも、はるかにへだたっているにちがひ」
(『第三の性』一九七二)と。和江さんの言葉
から五〇年近くを経て、私たちは今、どこまで
来ているだろう。

以下、問いを出してみれば・・・。

物質生産をめぐる階級対立と生命の生産を点
にした性差別の関連との違いは? / 直接性へ
の無原理の依存が女たちを性的バケモノにおと
しいれている罪は根源的! / 意識に先行して
人類に所属している性の自然性とは? / 「生
まない男の話」・生むということに引きつるの
は女ばかりではない! / 存在の回復を願う性
愛は・・・自然でもあれば、困難なものでもあ
る!

胎内に命を孕んだとき「わたしは・・・」と
いう一人称が言えなくなったという和江さんの

第1回・第2回ジェンダー部会 同日開催

日時 2019年8月25日(日) 13時～17時30分(途中休憩30分)

会場 福岡県人権啓発情報センター(ヒューマン・アルカディア)視聴覚研修室

参加資料代 500円(第1回・第2回通し)

◆13時～15時

第1回ジェンダー部会 『森崎和江を読む』学習会①

講師 うりう ひさこ さん(ジェンダー部会担当理事)

◆15時30分～17時30分

第2回ジェンダー部会 長崎市内フィールドワーク事前学習会

2019年度のジェンダー部会では2019年12月7日(土)～8日(日)に、長崎市内フィールドワーク(丸山遊郭跡等)を予定しております。参加ご希望の方や、フィールドワークに参加できないけれどもご関心のある方は、事前学習会にはふるってご参加下さい。

講師 野崎 秀人 さん(ジェンダー部会長)

会場案内 福岡県人権啓発情報センター
(ヒューマン・アルカディア)視聴覚研修室
福岡県春日市原町3丁目1-7
クローバープラザ 東棟 7階
(JR 鹿児島本線「春日駅」から徒歩1分)

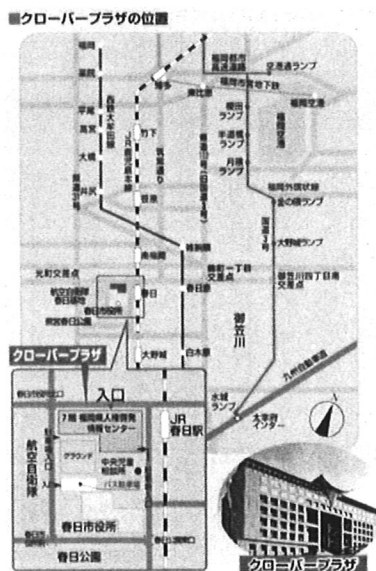
<お問い合わせ>

公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡県福岡市博多区吉塚本町 13-50

福岡県吉塚合同庁舎 4階 (E-Mail) info@f-jinken.com

(電話) (092)-645-0388 / 0387 (FAX)



「産」の思想とは／なぜ「性を生きることだけに限定されている存在」の方に歩いて行ったのか／ 娼婦たちは性を商品化する機構のなかで、おのれをいつわらざることを娼婦の条件とさせられる。それではいつわらない性とは何を指すのか／ 生まれない女としての女の感覚の思想化をしたポーポワールと女の性の全部を肯定して生きたい和江さんと・・・かぎりなく「問い」は湧きだす。

「もし、いつの日か人がのびやかに生きられるときが来たなら、そのときはわたしは、娼婦の性をものびのびと育てよう・・・」(「からゆきさん」・・・一九七四) こういう言葉のなかにさりげに込められている和江さんの女たちへの眼差しはあたたかさと確かさ！・・・胸が熱くも、痛くもなる。

「男女平等後進国」のレッテルの底ぶかく「女なくてはかなわぬ国」のなかで、女の未踏の闇にむかって生涯かけて降りていった和江さん

ん。自ら「生爪をはぐようなくあいに生きてきた」というその辛酸はいかばかり・・・！
多様な性もふくめて、何びとも「性」でない人はいない。いっしょにモタモタ読み、学びませんか！ みずから湧かさなければ、満ちるということはないから！

*追記・・・「おんなの記」を書いてきましたが、しばらく、この「森崎和江を読む」学習会の記録や、その都度の森崎和江論をもって替えさせていただきます。

二〇一九年度 第一回ジェンダー部会
『森崎和江を読む』学習会①
二〇一九年八月二十五日(日) 一三時～一五時
ヒューマン・アルカディア視聴覚室
(講師・・・うりう ひさこ)